

Economic Monitor

5月の新車販売増加はサプライチェーン回復のあかし

サプライチェーン復旧を受けた稼働率上昇により供給制約が緩和され、5月の新車販売は漸く反転。販売増加は生産予測に示された5月の生産拡大を担保。6月は更なる販売増加が期待される。

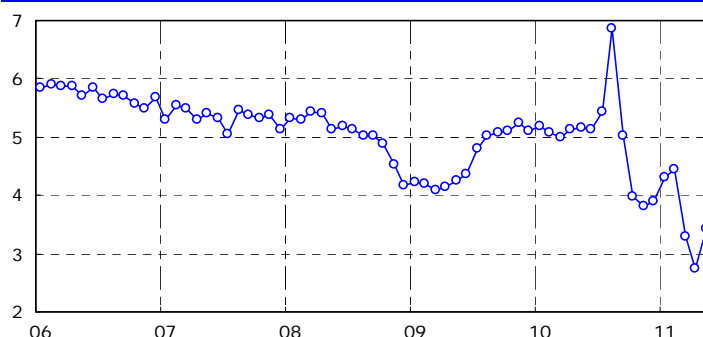
5月の新車販売(含む軽)は前月比25.5%(当社試算の季節調整値)と3ヶ月ぶりの増加に転じた。大震災によるサプライチェーン途絶を受けて、3月▲26.1%→4月▲17.0%と2ヶ月連続で大幅に減少したが、漸く反転した。原系列前年比で見ても3月 35.1% 4月 47.3% 5月 33.4%と、4月をボトムに減少幅が縮小へ転じており、底入れが明らかである。

5月の新車販売増加は言うまでもなく、サプライチェーンの復旧による完成車メーカーの稼働率上昇に伴うものである。4月下旬から多くの完成車メーカーが組立生産を再開し、5月は業界全体で見て5割超まで稼働率が上昇した模様である。稼働率の上昇で生産台数が増加し、ディーラーへの供給が増えた。一言で言えば、供給制約の緩和が販売増加に繋がった。

4月の鉱工業生産と同時に公表された生産予測では、輸送機械工業が5月に前月比35.7%の大幅増産を見込んでいた。生産予測のカバレッジを考えると、これは自動車セクター(完成車組立+主要部品製造)の増産と読み替えられる。生産から販売に至るフローを逆に辿ることになるが、5月新車販売の大幅増加は生産予測に示された5月大幅増産を担保するものと言えるだろう(生産開始から出荷までのラグや、輸出向けとの兼ね合い、車種構成などのため、販売の伸びと生産の伸びは一致しない)。

なお、5月の販売増加率は前月比25.5%と極めて大きい。しかし、これは3月▲26.1%、4月▲17.0%と2ヶ月連続で大幅に減少したため、比較対象となる4月の販売台数が年率換算273万台と2010年平均の55%まで落ち込んだが故である。比較対象の水準が低ければ伸びも極めて大きくなる。5月の販売水準は342万台と、未だ2010年平均の7割程度に留まる。6月には、サプライチェーンの復旧が更に進み稼働率が上昇、供給も拡大すると見込まれるため、更なる販売増加が期待できる。需要動向も影響するが、当社では6月の販売台数が少なくとも400万台は超えると予想している。

新車販売合計(年率、百万台)



(出所)自動車販売連合会等